

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3570300842		
法人名	医療法人 和同会		
事業所名	グループホーム 山口リハ		
所在地	山口県山口市黒川3380番地		
自己評価作成日	平成25年7月29日	評価結果市町受理日	平成25年12月12日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kaigosip.pref.yamaguchi.lg.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成25年8月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同一敷地内の複合型施設と保健・医療・福祉との連携や支援体制があり、火災発生時には火災警報盤で瞬時に連絡が取れ、協力が得られるようになっている。毎月定期的に大正琴、工芸教室、フラワーアレンジメント、笑いヨガ等のボランティアを取り入れ、お手玉に参加し、楽しみや生きがいに繋がっている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

管理者はユニットカンファレンスや全体ミーティング、日々の業務の中で職員の意見や提案を聞いておられ、業務マニュアルの見直しや利用者のその日の状況や一人ひとりの希望に添っての個別の外出支援を増やされるなど、利用者との日ごろの関わりの中で気づいた職員の意見や提案を運営に反映しておられ、利用者の楽しみごとや活躍できる場面づくりにつなげておられます。意見箱の設置の他、運営推進会議や行事参加時、家族会、面会時、利用者の「最近の様子」送付時に家族の意見や要望を聞く機会を設けておられ、プライバシーに配慮した面会簿の作成や家族の参加や協力が得やすいよう事業所の年間予定表の配布など、家族の意見を反映させておられます。地域で開催されるお手玉会や活け花展、クリーン作戦への参加、移動図書館の利用やボランティアの受け入れなど、地域の活動への参加や来訪者との交流など、地域の人々との関わりを持たれることで、利用者が地域とつながりながら暮していけるよう支援されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を実践する為、日々のミーティングで具体的に話し合っている。 お接待やクリーン作戦等に参加し、地域の方と関わっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所独自の理念をつくり、4つの基本方針とともに事業所内に掲示し、日々のミーティングで職員間で話し合い、共有して、理念の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的には交流していないが、地域での夏祭りへの参加、定期的なボランティア活動や生け花展への参加、クリーン作戦等に参加している。	地域のクリーン作戦に利用者と一緒に参加している。法人主催の夏まつりには地域の人や子どもたちの参加があり、交流している他、ボランティア(工芸教室、大正琴、キーボード演奏、フラワーアレンジメント)の来訪や実習生(専門学校生、大学生)の受け入れをしている。散歩時や買い物時などに出会う保育園児や地域の人と挨拶をする他、お大師参り、活け花展の見学、移動図書館の利用などで日常的に地域の人と交流している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今秋に10周年記念イベントを予定している。パンフレットを地域に配り参加を促し、グループホームを理解してもらう様に努力していきたい。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	外部評価について、スタッフミーティングを開き、講評の内容を検討し、改善を図っている。	評価の意義について全職員に説明し、自己評価をするための書類を配布し、記入してもらい、話し合い、管理者と計画作成担当者でまとめている。評価に取り組む過程で個別の支援や身体拘束をしないケアについての再認識している。応急手当や初期対応訓練について、看護師長の指導による心肺蘇生法や誤嚥の予防と対応について実施的な研修をするなど、前回の評価結果を活かして改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域代表、家族代表、山口市基幹型地域包括支援センター職員に参加してもらい、利用状況や行事報告、外部評価結果、避難訓練等の意見交換をし、サービス向上に活かしている。	2ヶ月に1回開催し、利用状況、行事報告、事故報告、外部調査結果報告、職員の研修報告、見学者や実習生の状況等について報告し、意見交換をしている。地域行事(祭り、敬老会等)や足湯の場所の紹介、健康管理、感染予防についての意見があり、話し合い、サービス向上に活かしている。地域からは自治会長のみの参加である。	・地域住民等のメンバーの拡大の検討
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者とは、電話等で相談をし助言を受けている。又、運営推進会議で山口市基幹型包括支援センター職員からも情報を得ている。	市担当課とは申請内容や介護保険等の法的解釈等の不明点について電話などで相談し、助言を得たり、情報交換をするなど協力関係を築いている。山口市基幹型地域包括支援センターと、運営推進会議出席時に情報交換している。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、全職員が理解して拘束のない生活に取り組んでいる。建物が2階建てで病院とつながっている為、2階部分の玄関は施錠している。1階部分の出入り口は施錠していない。	法人主催の新人研修時や日常業務の中で話し合い、職員は理解して、抑制や拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は施錠していない。外出を察知した場合は、一緒に出かける他、外出したい理由を職員間で話し合い、解決策を見出すなどの取り組みをしている。スピーチロックについては管理者が指導する他、職員間で話し合いをしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者に変化が見られた時はその原因を話し合い、虐待が見過ごされていない様、防止に努めている。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や成年後見制度について情報収集しているが、現在成年後見制度等を利用する入居者はいない。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時、重要事項説明書とサービス契約書を説明し理解を図っている。改定時には、家族会、グループホーム便り等でお知らせをしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置、面会時や電話、運営推進会議、家族会等で家族より意見、要望を聞き運営に反映させている。家族の意見は、申し送りノートを活用し職員間で情報共有している。	苦情受付窓口、外部機関、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。玄関に意見箱を設置している。運営推進会議時、家族会や行事参加時、面会時、電話の他に、2ヶ月に1回の利用者の「最近のご様子」報告送付時などで意見や要望を聞いている。事業所の年間行事予定表の作成やプライバシーに配慮した個別の面会簿の作成など、意見や要望を反映させている。介護相談員の訪問があり、利用者の意見等を事業所に伝えている。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常にミーティングを開き、全職員の意見や提案を聞き反映させている。	管理者は月1回のユニットカンファレンス時や2ヶ月に1回の全体ミーティング時に職員の意見を聞く機会を設けている他、日々の業務の中で聞いている。業務マニュアルの再検討やドライブでの個別の外出を増やす(月3回)などの意見や提案を反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の意見を聞き、状況に応じて対応し改善している。夜勤体制もユニット毎に職員1名配置し、職場環境も改善した。法人内外の研修に、職員1人が年に2回参加するよう計画している。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	グループホーム協会の研修や職員の経験、能力等に合った研修に参加し、他のグループホームも見学している。法人内の年間研修に基づき参加している。	外部研修は情報を伝え、希望や段階に応じて勤務の一環として参加の機会を提供している。受講後は復命し、資料を回覧をし、共有している。月1回の法人研修と介護教育委員会によるメンタルヘルスや感染症などの年5回の研修を非常勤職員も含めて勤務の一環として受講している。内部研修は看護師長の指導で心肺蘇生法や誤嚥の予防対応について実践研修を実施している。日々の業務の中で介護技術や知識を学べるように支援している。新人職員は法人研修の後、管理者や先輩職員が指導者となって、日々の業務の中で介護技術が身につくように助言指導している。	・内部研修の工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に属し、山口・防府ブロックの研修会に参加し、情報交換している。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前に利用事業所に出向き、家族や施設職員、担当ケアマネジャーからの情報収集している。その情報を基に、本人と面談して意向を聞く機会を設けている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時に家族との面談を行い、要望等を聞いている。		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人に合った、他のサービス利用も対応している。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒にコーヒータイムや食事を摂り、生活の中で共に支え合っている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が来訪された時は、心身の状況や日頃の暮らしぶりを伝え、意見や希望をお聞きしている。又、本人の様子を伝える為に、「最近の様子」や新聞等で定期的に知らせている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の行きたい所を聞き、外出を計画している。施設内の知り合いに会って話をする機会を設け、馴染みの関係が途切れない様支援している。	友人や知人、親戚の来訪、電話や年賀状の支援、自宅周辺や馴染みの公園、昔の勤務先へのドライブ、家族の協力を得て馴染みの美容院や法事、結婚式、外泊、外出、外食、受診等に出かけるなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の人間関係、相性などを把握し、外出や活動において支え合えるように支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了する前に、その方に合った施設等を紹介している。利用終了後の利用者、家族からの要望があれば相談等の支援を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や意向を聞き、本人本位になる様にケアプランへ反映させている。	入居時にフェスシートやセンター方式のシートを活用して、本人や家族から生活歴や趣味、習慣、好み、要望、介護の願いなどを聞き取り、共有している他、日々の関わりの中での利用者の状況を生活記録に記録し、ミーティング時に共有して、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からも具体的な過去の情報を伝えてもらい、その人らしい暮らしを把握するように努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の暮らし方や生活リズムを把握している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアカンファレンスを開き、意見を出し合い、介護計画を作成して共有している。	計画作成担当者と利用者の担当職員を中心に月1回ケアカンファレンスを開催し、本人や家族、医師、看護師等の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。1ヶ月毎にモニタリングを実施し、6ヶ月毎の見直しをしている。状態や要望に変化が生じた場合は、その都度見直しを行い、現状に即した介護計画を作成している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送り等張で情報を共有し実践している。		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	週一回の看護師の訪問で、利用者の健康管理や緊急時の対応、指導を行っている。本人の状態に合わせた医療処置を行い、生活を継続している。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的には大正琴、工芸教室、フラワーアレンジメントや移動図書館を利用し、安全で豊かな暮らしを楽しめるように支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	大多数の利用者が協力医療機関を主治医とし、月一回の受診支援を行っている。異常時は、当施設の主治医より他医療機関への情報提供を行っている。	協力医療機関がかかりつけ医の場合は、月1回の往診があり、以前からのかかりつけ医の受診は、家族の協力を得て支援している。訪問看護師による週1回の健康チェックを実施し、受診時には、情報提供をしている。緊急時の対応や服薬管理など、適切な医療が受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回、訪問看護師による健康チェックを受け、情報を伝えている。又、在宅総合支援センター所属の看護師長にも情報を伝え相談し、適切な受診を受けている。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は主治医からの診療情報提供書と介護情報を提供している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時や家族会で方針を示している。重度化した場合は、家族、主治医、関係者等で話し合い、訪問看護師や隣接病院等と連携しながら支援に取り組んでいる。	契約時に事業所のできる対応について家族に説明している。実際に重度化した場合には、家族、医師、看護師等、関係者と話し合い、方針を共有して、生活支援相談員が窓口となり、医療機関や関係機関への移設も含めて支援に取り組んでいる。ターミナルケアの経験もある。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	インシデント、アクシデント報告書に原因、対策を話し合い記入し、全職員に回覧している。初期対応の訓練は数回行えている。	インシデント、アクシデント報告書に記録し、その日の職員で対応策を話し合い、朝のミーティング時に検討して、共有し、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。看護師長の指導による心肺蘇生法や誤嚥の予防と対応についての実践研修を実施している。全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	・全職員が実践力を身につけるための初期対応や応急手当の定期的な訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回、法人の火災訓練に参加している。グループホームの避難訓練は、利用者と共に参加している。	年2回消防署の協力を得て実施する法人の夜間想定を含む避難訓練に職員が参加している。事業所独自で昼夜想定避難訓練を利用者と共に実施し、避難経路の確認や避難誘導を行っている。法人施設が災害時の地域住民の避難場所となっている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常業務の中で一人一人の人格を尊重し、さりげない対応を心掛けている。新人研修で接遇やプライバシー確保について学んでいる。	法人の新人研修において接遇やプライバシーについて学ぶ他、職員は日常の業務の中で話し合い、理解して、一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切な言葉づかいや対応があれば管理者が指導している。個人情報取り扱いや守秘義務について遵守している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者と一緒におやつや買い物に行き、食べたいおやつを決めてもらっている。又、誕生会でも、誕生者に好むメニューを聞いて取り入れている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のリズムに合わせ対応しながら、その人に合った活動をしている。		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出の行き先や行事などに合わせた服装や化粧、頭髪の支援をしている。又、家族と美容院にも出掛けている。		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、片付け等を利用者と共に行い、職員も同じテーブルで楽しく食事出来るよう、BGMをかける等の工夫をしている。	昼食、夕食は法人からの配食を利用し、朝食と週4回の昼食は利用者の好みを聞いて、畑で採れた野菜や旬の食材などを使って事業所で食事づくりをしている。利用者は下ごしらえ、盛り付け、配膳、下膳などできることを職員と一緒にしている。利用者と職員は一緒に同じ物を食べながら和やかに食事をしている。おやつづくり(ホットケーキ、パンケーキ、ぜんざいなど)や季節感のある食事(ソープ流しなど)や行事食、外食、弁当を作って戸外での食事、喫茶店に出かける他、家族の協力を得ての外食など、食事を楽しむことのできる支援をしている。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	火、木、日の昼食と毎日の夕食は栄養士の献立による食事を提供している。毎月一回体重測定し、体重の管理をしている。水分はいつでも飲めるように工夫している。		
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けを行い、習慣づけている。夕食後は義歯を洗浄し、消毒している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、排泄パターンをつかんでトイレ誘導している。又、時間をみてトイレ誘導し、排泄の自立支援を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄のパターンや習慣を把握し、声かけや誘導で、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操を取り入れ運動を促し、水分摂取もしっかり飲みたい時に飲める様工夫している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人一人に合わせた入浴時間を提供し、入浴拒否の利用者には、声掛けや対応の工夫、タイミング等、一人一人に合った入浴支援をしている。	毎日、10時から15時30分の間に利用者の希望や状態に合わせて、ゆったりと入浴できるよう支援している。入浴したくない人には、声かけの工夫やタイミングの工夫、職員の交代等の対応をしている。状態に応じての清拭やシャワー浴、足浴の対応をする他、柚子や菖蒲、バラ、入浴剤などで気分転換を図るなど、入浴を楽しむことのできる支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩後には休憩し音楽を聴いてリラックスを促し、生活リズム作りをして、安心して眠れるよう支援している。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に薬の説明書を生活記録に綴じ、薬の目的、副作用等を理解するように努めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理、片付け、モップかけ等の役割分担し、ねぎらいの言葉かけ等の適切な声掛けをしている。又、買い物に出掛けたりと気分転換の支援をしている。	テレビやDVD視聴、新聞を読む、読書、習字、ぬり絵、貼り絵、ちぎり絵、坊主めくり、風船バレー、文字、数字合わせ、ジグソーパズル、ラジオ体操、ペットボトル体操、ストレッチ、お手玉、生け花展、お大師様めぐり、季節行事(節分、クリスマス会など)、ボランティア(フラワーアレンジメント、キーボード演奏、工芸教室、大正琴、二胡等)との交流、足湯、ドライブ、散歩時の保育園児との交流、調理、盛り付け、配膳、下膳、おやつ作り、洗濯物干し、洗濯物たたみ、掃除、野菜作りなど、楽しみごとや活躍できる場面をつくり、張合いのある日々が過ごせるように支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	一人一人の行きたい場所を聞いて、ドライブや外出行事を行っている。家族にも声掛けをし、外出行事へ参加いただいている。	散歩や買い物、お大師様参り、お手玉会、活け花展、足湯、花見(梅、桜、つつじ、菖蒲、藤、紅葉)、リンゴ狩り、ドライブ(美東の道の駅、きらら阿知須道の駅、秋穂荘、フジグラン、維新公園、サビエル、瑠璃光寺、河川敷公園、西鳳嗣山、常盤公園、カルストロード、山口博物館、重源の里、プラネタリウムなど)、外食の他、家族の協力を得て美容院の利用、結婚式や法事への出席など、戸外に出かけられるよう支援をしている。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預り金で、外出時に必要な物があれば買い物できる様にしている。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人希望時は利用者本人が電話をかけている。手紙もやり取りできるよう支援している。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じた飾り付けを利用者と共に行っている。BGMをかけてリラックスが出来るよう配慮している。ホール、浴室に温度計を設置し、居心地良く過ごしていただけるようにしている。	リビングの大きな窓には、朝顔のグリーンカーテンが広がり、窓から見える田畑や室内の生花などで季節を感じることができる。掘り炬燵のある畳のコーナーやテレビの前の大きなソファは利用者の居場所となっている。キッチンからは調理の音や御飯を炊く匂いなどで生活感を感じることができ、壁面には利用者の貼り絵や習字などが飾っており、トイレや洗面所、浴室は清潔で使いやすく、温度や湿度、換気にも配慮して居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールの座席を気の合う利用者同士にしたり、廊下にソファを置き、自由にくつろげる様にしている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していたベッドやタンス等を持ち込んで生活している。孫の写真を飾る等の居心地の良い空間になるよう工夫をしている。	ベッド、小机、椅子、テレビ、鏡台、サイドボード、タンス、衣裳ケース、衣裳掛けスタンド、座布団、小ケース、雑誌、化粧品、造花、ぬいぐるみ、人形、家族写真、表彰状、作品(ぬり絵、貼り絵、ぼんぼり、習字)など、使い慣れた物や好みの物を持ち込み、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下には手すりがあり、安全な環境となっている。ベッド柵や滑り止めマットを使用している。		

2. 目 標 達 成 計 画

事業所名： グループホーム山口リハ

作成日： 平成 25年 12 月 11 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	35	急変や事故発生時の職員の対応、事故防止について取り組んでいるが、全職員が実践力を身につけるまでには至っていない。	職員全員が急変時の初期対応が出来るように定期的な訓練を継続し、実践力を身につける。	①併設する病院の看護師長を講師とし、グループホーム全職員を対象に6月・12月に急変時の初期対応、応急手当についての研修会を開催する。	12ヶ月
2	5	外部研修や法人研修は職員一人ひとり受けているが内部研修が行えていない。	日々の業務の中で介護技術や知識を学び定期的に勉強会を開催する。	グループホームの職員で勉強会を4月、10月に開催し介護技術や知識を学ぶ。	12ヶ月
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。